

尾張旭市の名古屋産業大・名古屋経営短大で今月八日にあった二〇二〇年度の入学式。一年遅れとなった式典で、入学の辞を述べた山田裕汰さん(左)は「諦めずに自分を表現することが社会人になる第一歩だと思う」と力強く語った。

入学式は山田さんが高木弘恵学長に手紙を出して実現した。便せん三枚には、想像とはかけ離れた大学生活に「仕方ない」と思いながら「自分の一」が過ぎたことへのやるせなさや、残りの三年間に「明るい未来を想像できない」という赤裸々な思

一步

こぼれ話



い、「二年生に新たなスタートを切る機会を与えてください」と切なる願いが記されていた。

「この手紙は、大人でも踏み出せない一歩だと思おう」と高木学長。今回のように勇気を振り絞って踏み出した一歩には、応えてくれる人がきつという。困難な今にあって、立っているのが精いっぱいな人でも、その踏み締める一歩一歩に寄り添う人がいる。そう信じている。(吉本章紀)

心新たに1年遅れの入学式

尾張旭市の名古屋産業大と名古屋経営短大で八日、二〇二〇年度の入学式が開かれた。昨春は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、同大の学生の要望で実現。一年遅れの晴れの日を迎えた。

昨年は入学式の中止のほかに対面授業ができない時期

名産大・名経短大 学生要望で実現



高木学長委に宣誓する山田さん＝尾張旭市の名古屋産業大・名古屋経営短大で

もあるなど、学生生活に大きな影響が出た。今年四月中旬、「先の見えない不安の中でも気持ちを切り替えたい」と思い立った同大現代ビジネス学部二年の山田裕汰さん(左)が学長宛てに手紙を書き、高木弘恵学長は開催を即決した。

二〇二〇年度の入学生は同大二百五十九人、大学院十一人、短大百六十九人。うち希望した学生二十五人と保護者、教職員らが出席。高木学長は手紙を紹介して「チャレンジ精神を忘れずに一歩踏み出してほしい」とエールを送った。

山田さんは代表して「多くの方のおかげで素晴らしい入学式ができた」と感謝し、「思い描いたキャンパスライフは難しいと思うが、二年生一同、切磋琢磨して社会に貢献できる人材になれるよういろいろなことを学んでいきたい」と誓った。(吉本章紀)